

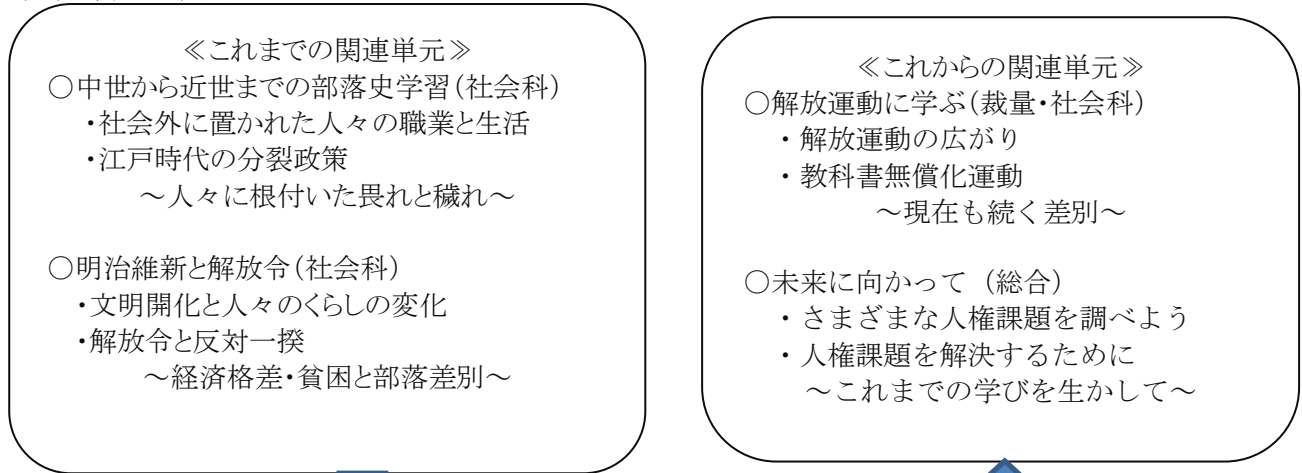
# 第6学年 人権教育学習指導案

令和元年10月2日(水) 5校時  
6年 児童数 6名  
場所 6年教室  
指導者 岩井 圭

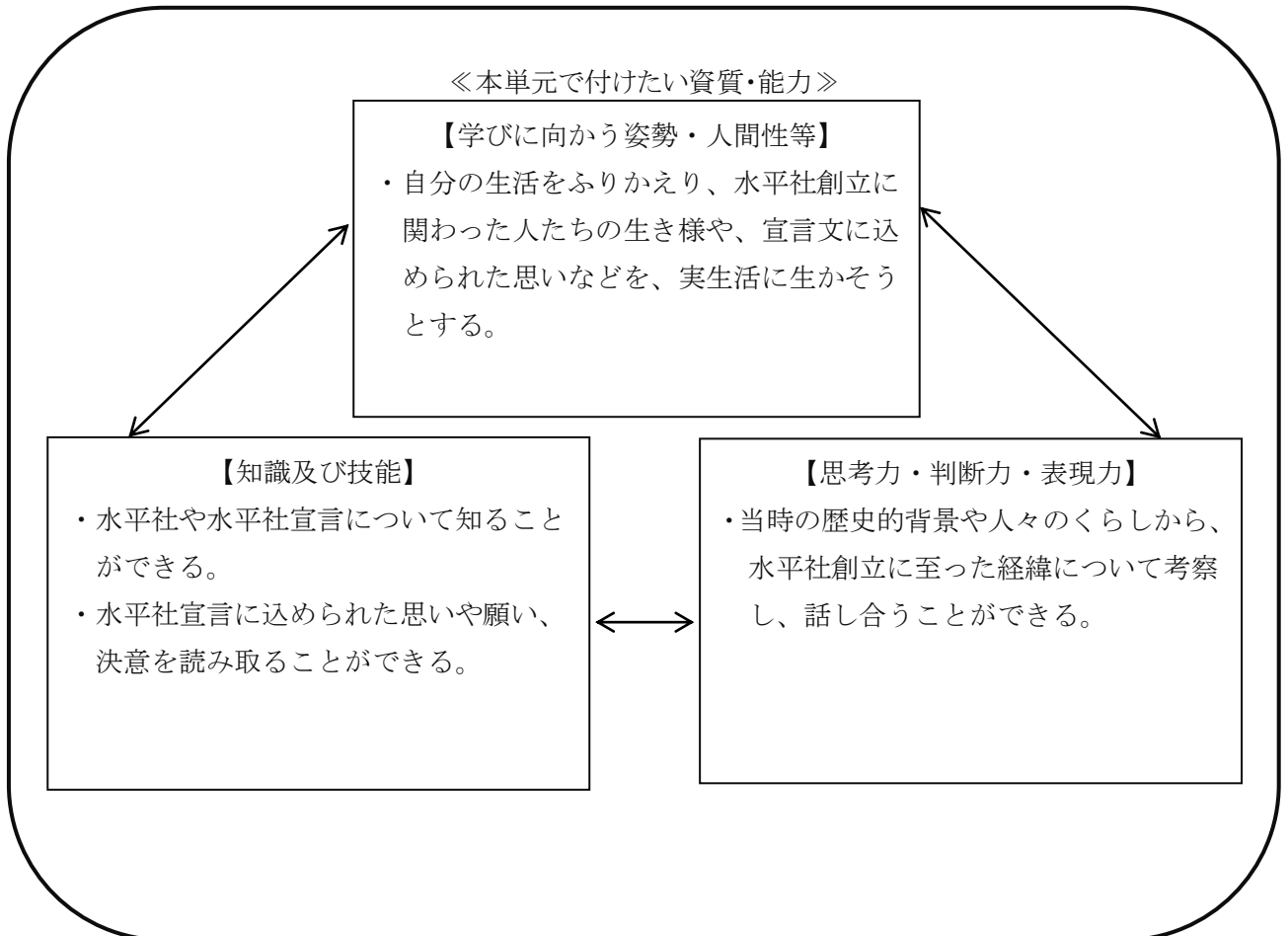
1 単元名 「水平社宣言に学ぶ」

2 本単元で付けたい資質・能力

(1) 単元の系統性



(2) 資質・能力



### 3 児童の実態

#### (1) 児童の実態

本学級の児童は、明るく前向きな児童が多い反面、少人数の中に上下関係があり、感情や思いをすぐに表に出す一部の児童の発言で集団が動く傾向にある。Q-U検査では6名中1名が侵害行為認知群、1名が非承認群に属しており、学級集団に不満や不安を持っている児童がいる。

部落史学習については、これまで社会科の歴史学習を通して、部落差別の成り立ちと被差別の立場の人々の暮らしなどについて学習してきた。しかし、これらの学習はあくまでも歴史の中の出来事であり、現代に生きる自分たちとは別の物としてとらえているように感じられる。また、差別はいけないと頭では分かっているが、どのような言動が差別につながるのか判断することが弱く、反差別の視点で自己を振り返ることができていない。そのため、部落史学習に対する子どもたちの興味・関心は高いとは言えず、部落差別を自分たちの課題としてとらえ、これからの生き方について考えていくことは、このままでは難しいと考えられる。そこで、本単元では学びを自分事として考えられるしかけや発問を工夫したり、思いや気づきを共有していく活動を多くしたりしていくことが重要である。

#### (2) 実態に応じた支援・手立ての工夫

- ・解放令以降の時代背景と人々の暮らしの変化を知る際、人々の心の弱さに焦点をあてることで、水平社創立の必然性に気づかせる。
- ・差別事象について、自分ならどう考え、どう行動するか対話する機会を設ける。
- ・調べ学習を取り入れ、興味・関心があること共有することで、学びに主体性を持たせる。
- ・水平社宣言を読み、心に残ったことを伝え合うことで、お互いの気づきを共有させる。
- ・宣言文に込められた人々の思いや願いについて話し合う活動を取り入れ、自分事として考えさせていく。
- ・これからの自分たちの考え方や生き方を肯定的に認め合うことで、お互いが大切にしていけることを共有できるようにする。

### 4 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	知識・理解
水平社宣言に興味を持ち、調べ学習や意見交換を通して、学びを深めようとしている。	水平社宣言に込められた思いや願い、決意について考え、自分の言葉で表現している。	水平社創立や水平社宣言について調べ、まとめている。	当時の時代背景と人々の暮らしの変化を知り、水平社創立の経緯を理解することができる。

5 本単元の展開・評価計画（全6時間）

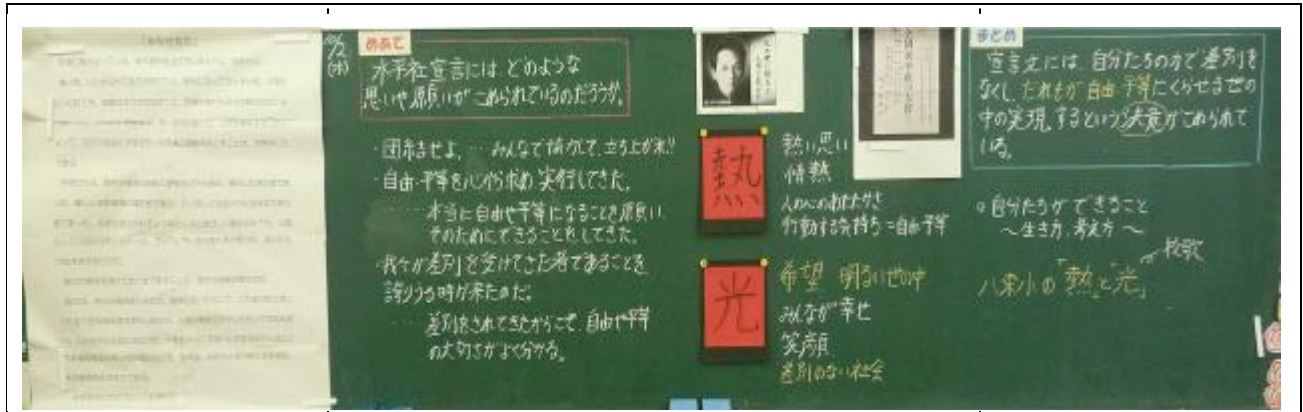
小単元	時間	目標	学習活動	評価規準
第一次	2	水平社創立に至るまでの時代背景を知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・解放令後にも差別を受けたり、職業を奪われたりして、よりくらしが苦しくなっていた経緯をふり返る。</li> <li>・大正時代の社会の様子と人々のくらしについて知る。</li> <li>・当時の人々の思いや願いを考える。</li> </ul>	<p><b>知</b> 水平社創立当時の時代背景と人々のくらしの変化を知り、水平社創立の経緯を理解することができる。</p>
	1	なぜ水平社が創立されたのか考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料をもとに、水平社と創立に関わった人たちについて知る。</li> <li>・なぜ、西光さんたちは自分たちで立ち上がったのか、これまでの学びを踏まえて考える。</li> <li>・意見を交換し合う。</li> </ul>	<p><b>考</b> 差別されてきた人々が、ついに立ち上がるに至った必然性に気づき、その背景を考えている。</p> <p><b>関</b> 意見交換を通して、学びを深めることができる。</p>
第二次	2	水平社宣言を読み、そこに込められた人々の思いや願いについて考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宣言文を読み、初読の印象を発表し合い、心に残った文や語句について自分なりに意味を考える。</li> <li>・宣言文に込められた人々の思いや願いについて考える。（本時）</li> </ul>	<p><b>関</b> 宣言文を読み、心に残った表現を自分なりに解釈しようとしている。</p> <p><b>考</b> 宣言文に込められた思いや願い、決意について考え、自分の言葉で表現している。</p>
第三次	1	これまでの学習をもとに、自分の生活をふり返り、今後の生き方について考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宣言文の内容や、差別されてきた人たちの生き様をふまえて、今までの自分の言動や生活を見つめ直す。</li> </ul>	<p><b>関</b> 自分の生活や言動をふりかえり、これまでの学習をもとに今後の自分やなかまの生き方や在り方を考えている。</p>

6 本時の学習

(1) 目標・評価規準

本時の目標	水平社宣言に込められた思いや願い、決意に気づき、自分の言葉で表現し合う。
本時の評価規準	【考】 宣言文に込められた思いや願い、決意について考え、自分の言葉で表現している。(観察・発言)

(2) 展開



	導入	展開	まとめ
<p>学習活動(番号)</p> <p>発問(○)</p> <p>児童の反応(・)</p> <p>留意点(☆)</p> <p>評価(※)</p>	<p>1 前時の学習を振り返る。</p> <p>○水平社宣言の中で、心に残った表現や語句はどのようなものでしたか。</p> <p>・「人の世に熱あれ 人間に光あれ」</p> <p>・「我々の祖先は自由と平等を心から求め、実行してきた者であった」</p> <p>・「我々は、心から人生の熱と光を求め、その実現をめざすのである。」</p> <p>☆自分たちなりの解釈も述べさせる。</p> <p>2 めあてを確認する。</p>	<p>3 宣言文に込められた人々の思いや願い、決意について考える。</p> <p>(1) 差別されてきた人々の思いや願いが表現されていると思われる箇所を発表し合う。</p> <p>○宣言文で、西光さんたちの思いや願いが表れていると思う所は他にないですか。線を引いてみましょう。</p> <p>・団結せよ。</p> <p>・自由、平等を心から求めた。</p> <p>・私たちが差別されてきた者であることを誇りうる時がきたのだ。</p> <p>(2) どのような思いや願いが込められているのか考える。</p> <p>○みんなが見つけた思いや願いはどんなことなのか、自分の言葉で言えますか。</p> <p>☆時代背景を踏まえて、自分の言葉で述べさせるようにする。</p> <p>☆ペア対話→全体協議</p> <p>・自分の言葉で思いや願いを伝える。</p> <p>・なかなか考えが持てない児童は、対話を通して意見を持つようにする。 ※評価</p> <p>5 「熱」と「光」の意味について改めて考える。</p> <p>○宣言文の最後にある「熱」と「光」に込められた意味を考えましょう。</p> <p>・「熱」とは差別をなくしていく熱い思い。情熱。</p> <p>・「光」とは、差別のないみんなが幸せな世の中。</p> <p>☆お互いの考えを肯定的に受け止めるようにする。 ※評価</p>	<p>4 本時のまとめをする。</p> <p>☆八束小の校歌にも、「熱」「光」の語があることに触れる。</p> <p>5 これから自分たちが生活の中で気を付けていきたいことを考え、伝え合う。</p> <p>○皆さんは今そして未来でどんな生き方をしていきたいと考えますか。</p> <p>・差別をしない生き方。</p> <p>・相手のことを考えて行動する。</p> <p>・人任せにしない。</p> <p>・みんなのことも考える。</p>

(3) 準備物 宣言文(掲示用・ワークシート)